２０１２年度　鋼構造塑性設計小委員会　第５回　議事録（案）

日　時：2013 年 3 月 18 日（月）　14:00－17: 00
場　所：長崎大学
出席者：玉井宏章（主査），高松隆夫，緑川光正，佐藤篤司，廣重隆明，岩間和博，
五十嵐規矩夫（記録）

資　料

No. 0501　2012 年度第４回鋼構造塑性設計小委員会議事予定（2013 年 3 月 18 日）
No. 0502　2012 年度鋼構造塑性設計小委員会第４回議事録（案）
No. 0503　鋼構造塑性設計指針　第 3 版　目次案（執筆担当）2013-03-18
No. 0504　改定内容の要点
No. 0505　2013 年度 委員会活動計画案
No. 0506　塑性設計指針 ８章構成内容案（聲高）
No. 0507　新規幅厚比指標による H 形断面柱の局部座屈耐力及び塑性変形能力評価（五十嵐）
No. 0508　「第９章設計手順」、「第 10 章設計例」について（廣重，岩間）
No. 0509　構造性能評価試験法及び評価法に関する資料
（鋼構造建築物の構造性能評価法に関する研究委員会報告書，建築物の耐震性能評価手法の現状と課題）（五十嵐）
No. 0510　読者からの質問と回答案（五十嵐）

審議議題

１．第４回議事録の確認

- 資料 No. 0502 に基づき前回議事録が読み上げられ，了承された．

２．目次案について

- 資料 No. 0503 に基づき，前回までの議論を踏まえた目次案が説明され，以下の点について議論があった．
  - 「軸力」ではなく「軸方向力」で統一する．
  - 節 7.1 の「設計の概要」は，適切な節タイトルとする．例えば，「接合とは」など．
  - 第７章の執筆担当は聲高委員のみ．
  - 板の塑性崩壊解析手法については，例題で留まることなく，出来れば説明，解説もする．
  - 第８章の目次は資料 No. 0506 のものに基本的には変更する．ただし，動的解析が主と捉えられるような書き方にならないように注意していただく．あくまでも静的なものと絡めて記述していただく．
  - 応答計算は，きりがないので，やめてもよいのではないかという意見があった．

３．改定内容の要点について

- 資料 No.0504 に基づき，今年度議論のあった事項について，整理された内容が担当者より説明され，確認と見直しを行った．その中で，主要な検討項目として以下のような議論があった．
  - 全体に関わる問題として，部材の塑性変形能力をどの時点で取るかについて統一するのは難しい．各部材ごとの特性を踏まえた上で，明確な理由付けを行うこととした．次回小委員会を目処に，各部材（板要素，梁，柱）について考え方とどの時点で塑性変形能力を取るかを整理すること．
  - 第５章「梁」には，梁端部境界条件に応じた座屈長さの考え方が抜けているようなので，記述する事を考慮していただくこととした．
  - 第９，10 章で議論に上がっていた解析結果のデータの見方と塑性解析との対応解説やパネルの塑性化を考慮した解析については，第８章において記述したいただいた方が良い内容であるので，聲高委員にご検討いただく．
  - 再度，各委員においては担当箇所について確認すること．

４．改定に向けた各章の取り組みについて

- 資料 No. 0506 に基づいて，玉井主査より「第８章　骨組」ついて聲高委員からの目次及び内容案が説明された．詳細については次回以降検討することとした．
- 資料 No. 0507 に基づいて，五十嵐委員より「第４章　板要素」に関わる軸方向力を負担する H 形断面部材の局部座屈挙動について説明があった．
- 資料 No.0508 に基づいて，岩間委員より「第９章 設計手順，第 10 章 設計例」について現在進めている設計例について説明があった．次回委員会にて詳細を報告予定である．

５．今後の予定

- 資料 No.0501，No.0505 に基づき今後の活動計画案が示された．
  - 2013 年度：原稿作成
  - 2014 年度：建築学会大会 PD
  - 2014 年度：改訂原稿の査読及び修正
  - 2015 年度：査読修正及び出版・講習会
- 次回の小委員会の開催予定
  - ５月 18 日（土）１４：００～１７：００　建築会館
    年度の計画と成果確認